

令和8年度

兵庫県こども政策モニター 第1回アンケート結果

自転車の利用・交通安全に関する意識調査

登録者数

	丹波	但馬	播磨東	播磨西	淡路	神戸	阪神	計
小学生	3	5	21	21	5	40	36	131
中学生	2	5	18	18	4	40	36	123
高校生	4	2	18	18	4	40	28	114

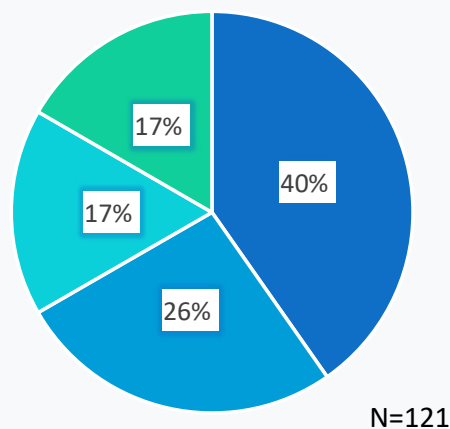
回答者	小学生	121	(92.4%)
	中学生	111	(90.2%)
	高校生	97	(85.1%)

SECTION

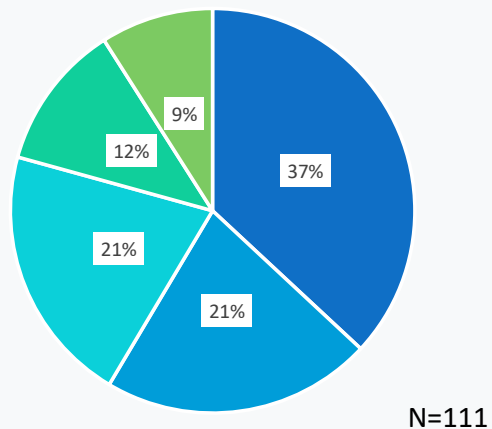
普段の意識

Q1 あなたは、普段の生活の中で自転車に乗ることがありますか

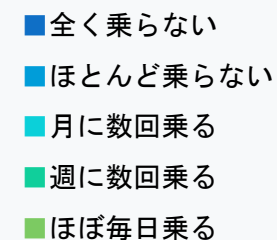
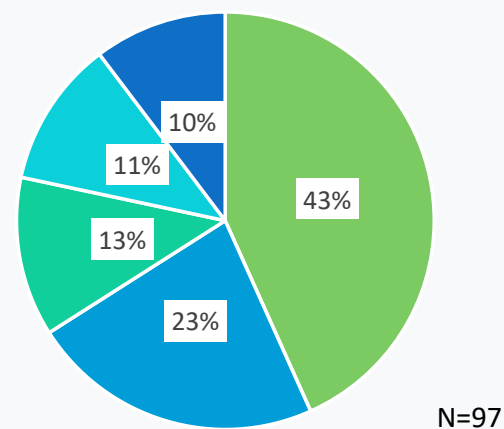
小学生



中学生

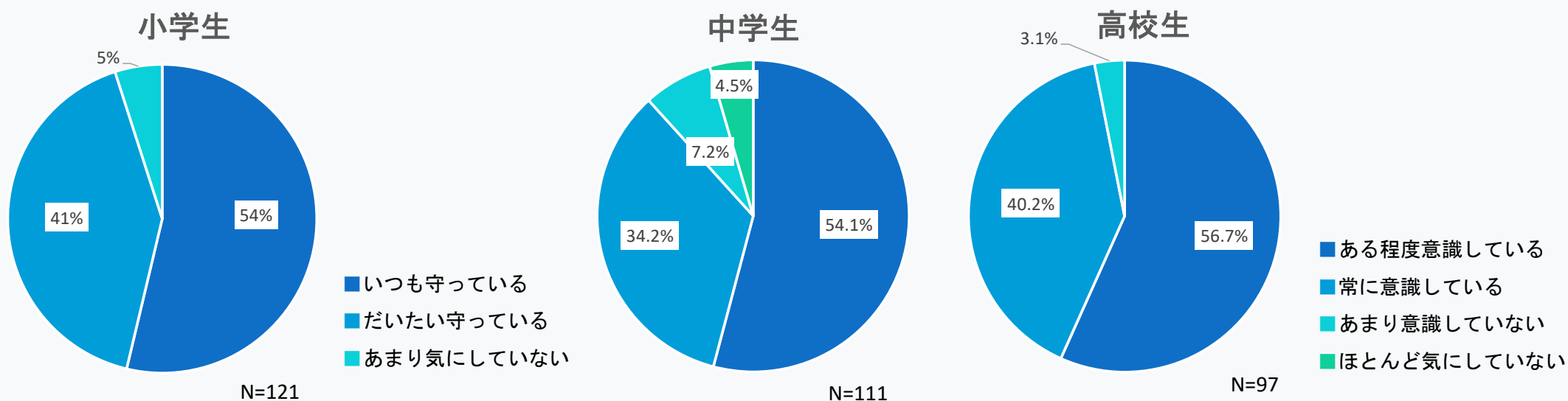


高校生



- 考察
- ・「ほぼ毎日」の利用は高校生に特に多く、どの世代よりも高校生が自転車を日常的に利用している。
 - ・通学などで行動範囲が広がることで、利用頻度の増加につながっていると考えられる

Q2 (小学生)あなたは、自転車に乗る時、交通ルールをどれくらい守りますか
(中高生)あなたは、自転車を利用する際、交通ルールを守ることをどの程度意識していますか

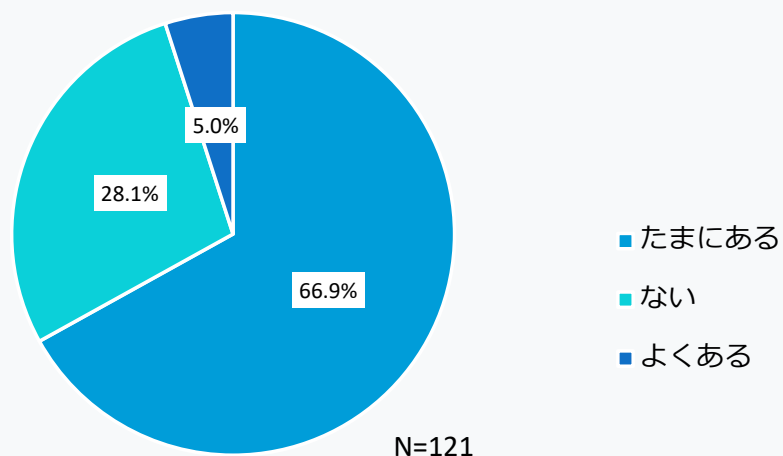


- 考察
- ・ どの世代でも90%程が「常に意識している」「ある程度意識している」と回答している。
 - ・ 高校生になっても、交通ルールを意識しない人は少ない。
 - ・ 年齢が上がって自転車利用の割合が増加しても、ルール意識は一定程度保たれている。

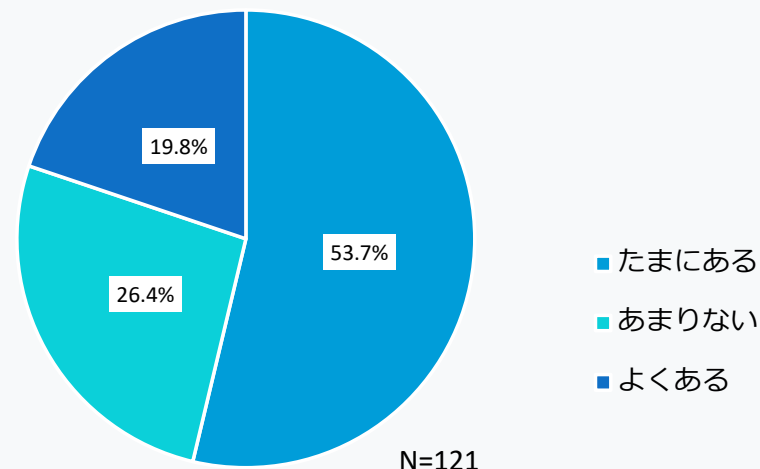
SECTION

危険だと感じること

Q3 自転車に乗っていて危ないと思ったことはありますか【小学生】



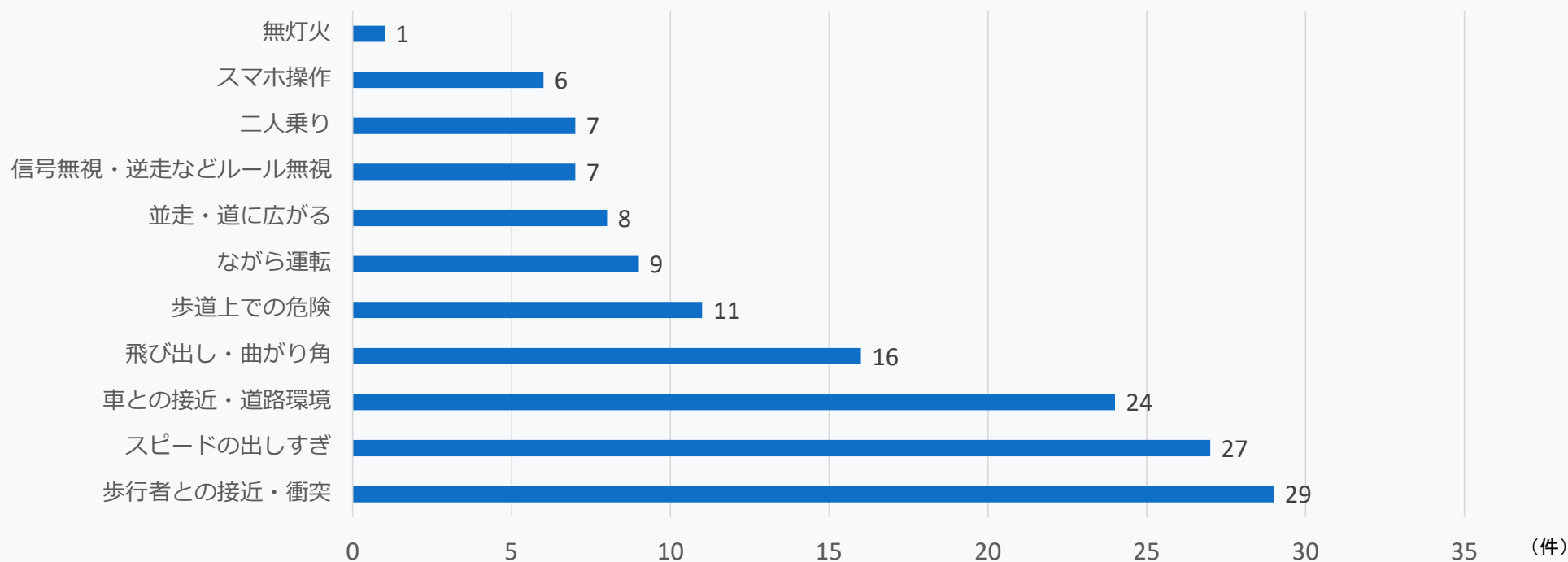
Q4 歩いているとき、ほかの人が乗っている自転車が危ないと思ったことはありますか【小学生】



- 考察
- ・小学生は自転車利用率が低いに関わらず、危険を感じるものが「たまにある」という回答が過半数をしめているため、一概に危険が少ないとはいえない。
 - ・自転車に乗る側だけでなく、歩行者側も危険を感じている。

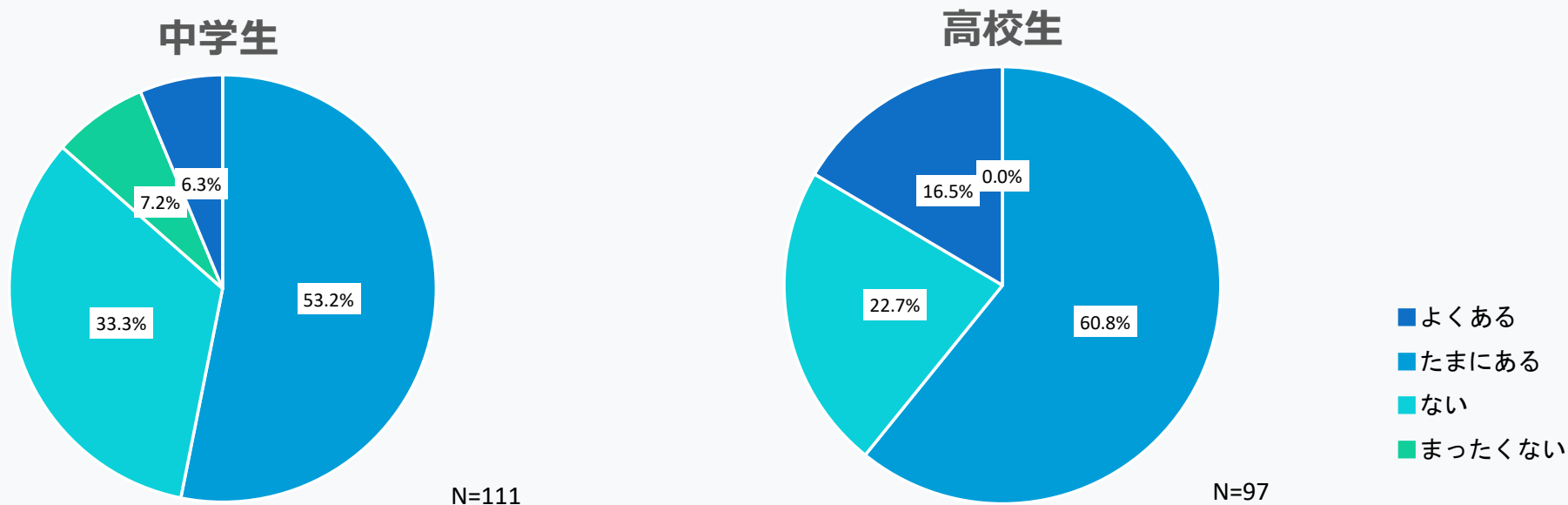
(Q4に付随)それはどんな時ですか

※歩いているとき、ほかの人が乗っている自転車が危ないと思ったことはありますか



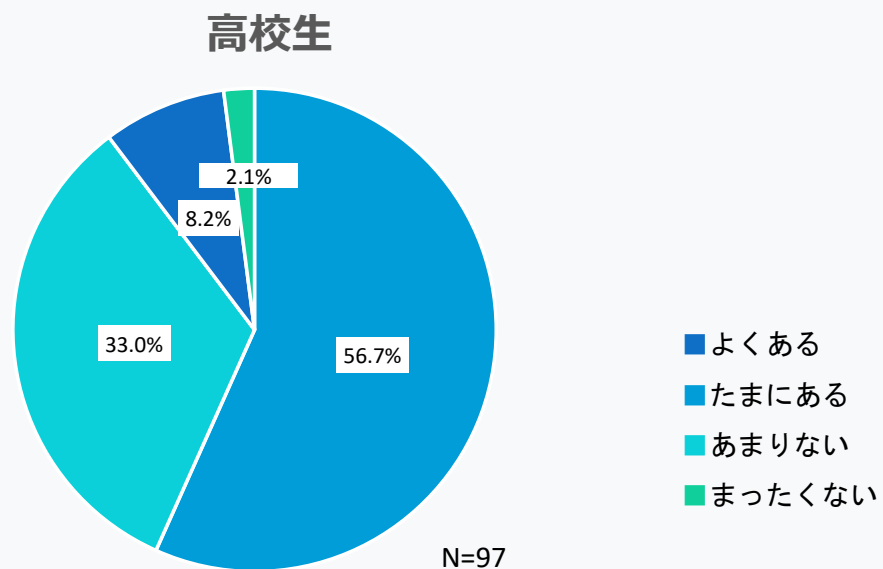
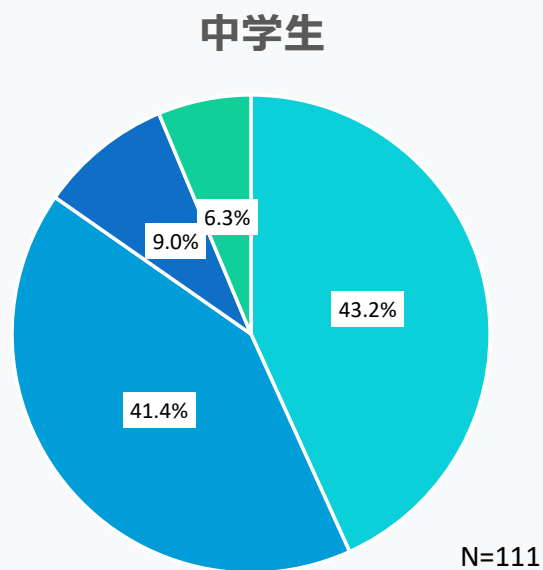
- 考察
- ・「歩行者との接近・衝突」で危ないと思うことが一番多い
 - ・歩行者や車との接近、スピードの出しすぎに対して危険を感じやすい

Q5 自転車に乗っているとき、どの程度危険を感じますか



- 考察
- ・「たまにある」の割合が中学生・高校生共に1番多い
 - ・「たまにある」「よくある」を足すと、高校生の77.3%が危険を感じることがあると回答
 - ・自転車を利用する機会が多いほど、危険を感じる場面も増える可能性がある

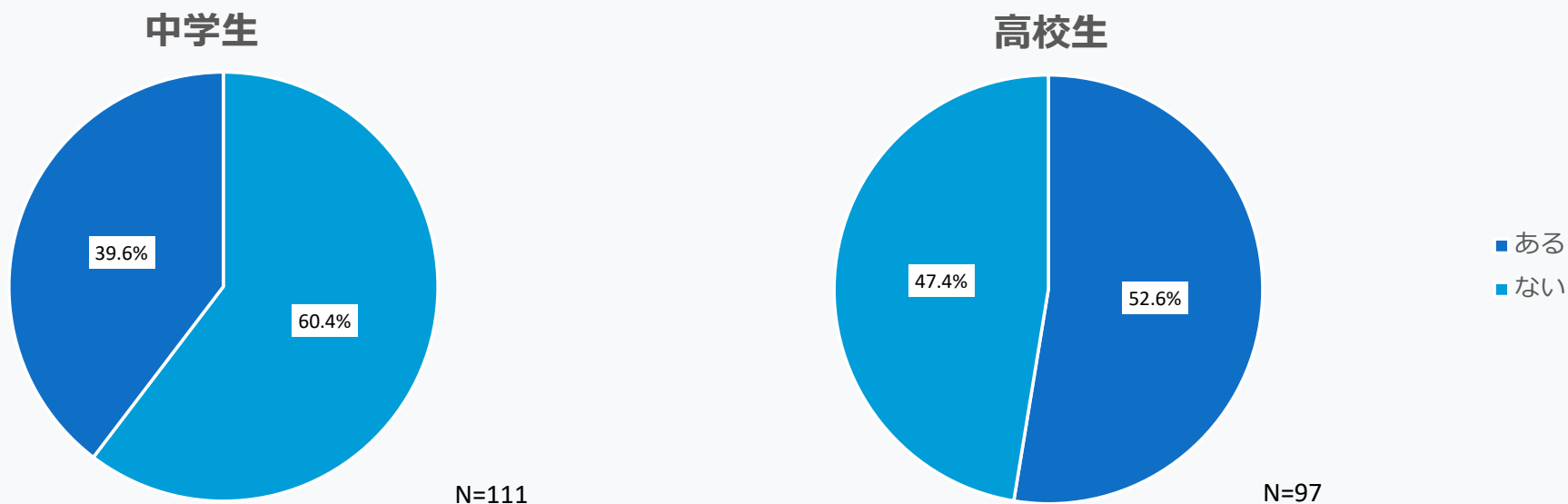
Q6 歩いているとき、自転車にどの程度危険を感じますか



■ よくある
■ たまにある
■ あまりない
■ まったくない

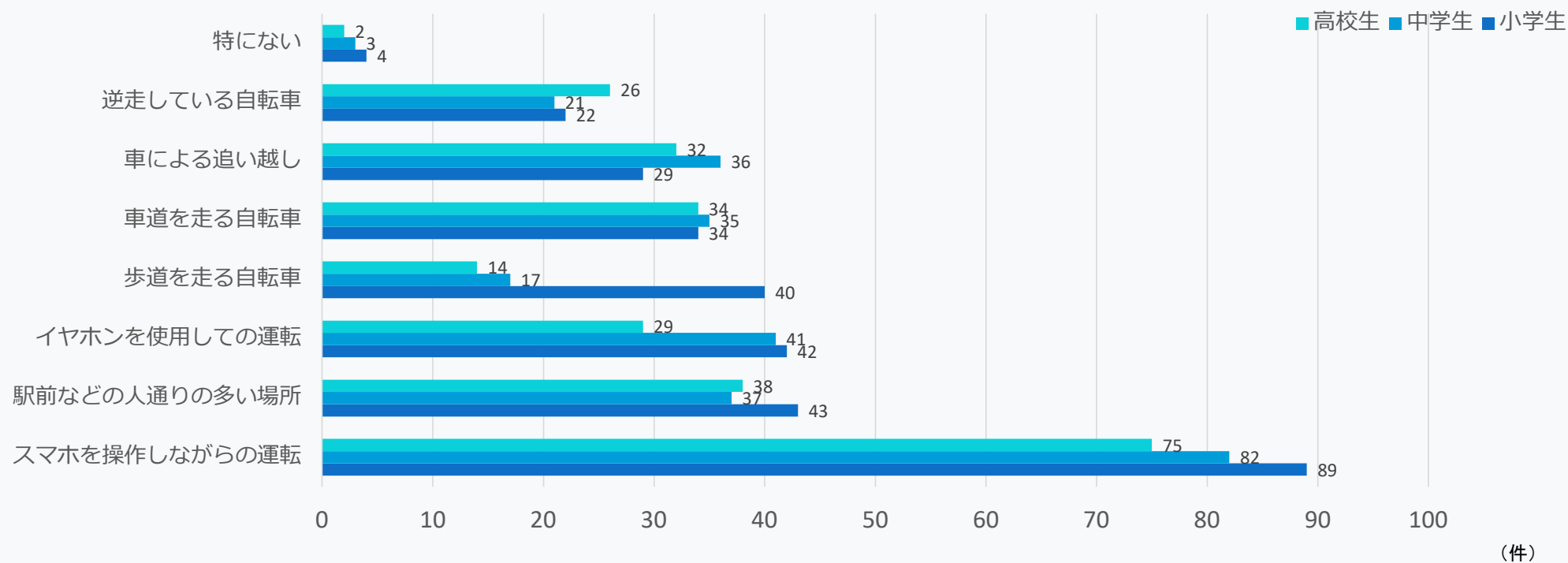
- 考察
- ・ 「たまにある」「よくある」の回答割合は中学生も高校生も半分以上を占める
 - ・ 自転車利用者だけでなく、歩行者としても危険を実感していると考えられる。

Q7 あなたは、過去1年以内に自転車を利用して「ヒヤリ」「事故に遭いそうだった」と感じた経験がありますか



- 考察
- ・ 「ある」の回答割合は中学生より高校生の方が高い。
 - ・ 自転車を利用する機会の多さが、危険経験の増加につながっている可能性がある。

Q8 日常生活の中で、自転車に関して「危険だと感じる場面」はどれですか



- 考察
- ・「スマホを操作しながらの運転」全世代で最も多い。
 - ・歩道や人通りの多い場所など、歩行者と自転車の関係で危険を感じることも多い

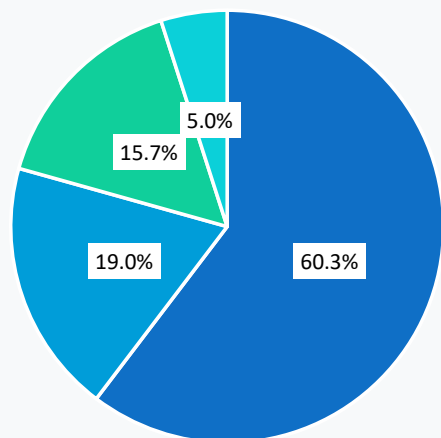
SECTION

ヘルメット

Q9 自転車に乗る時、ヘルメットをかぶりますか

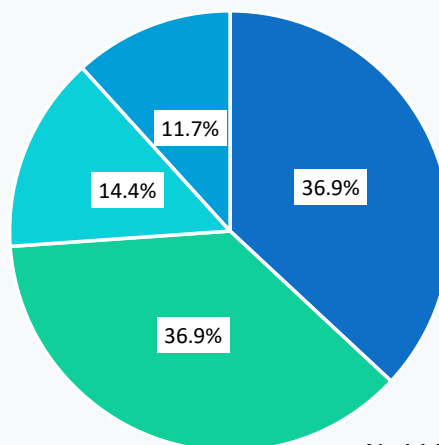
■ いつもかぶる ■ ほとんどかぶらない
■ 時々かぶる ■ まったくかぶらない

小学生



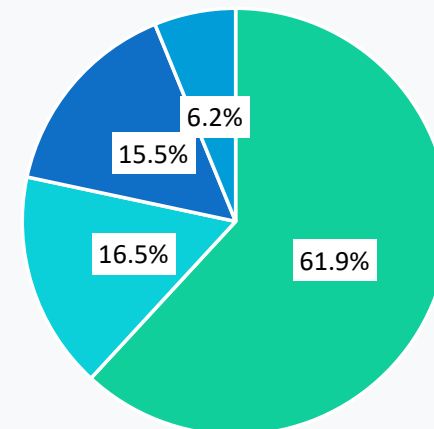
N=121

中学生



N=111

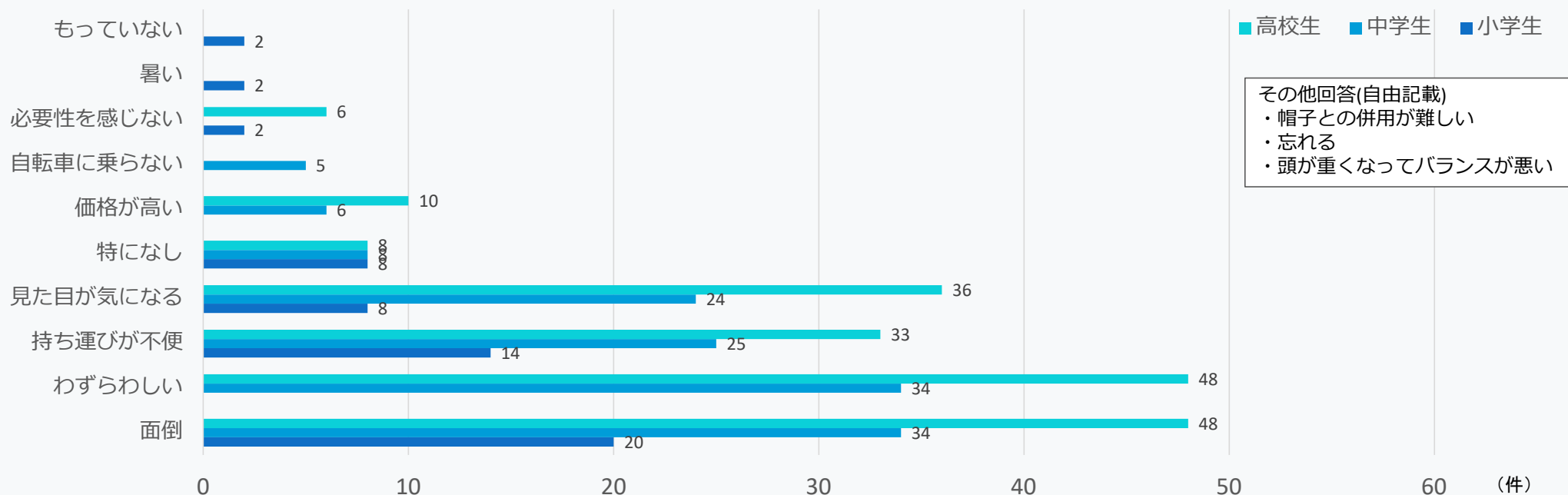
高校生



N=97

- 考察
- ・「いつもかぶる」世代が大きくなるにつれ大きく減少
 - ・中学生になるとかぶらないとの回答が過半数を超え、高校生では78.4%がかぶらない
 - ・自転車に乗る頻度が上がるほどヘルメット着用率が低下している

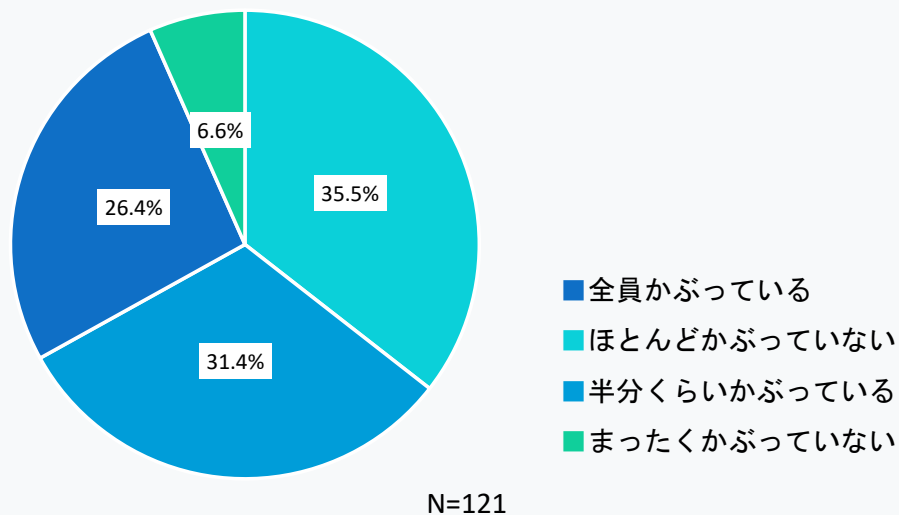
Q10 ヘルメットを着用しない理由は何ですか



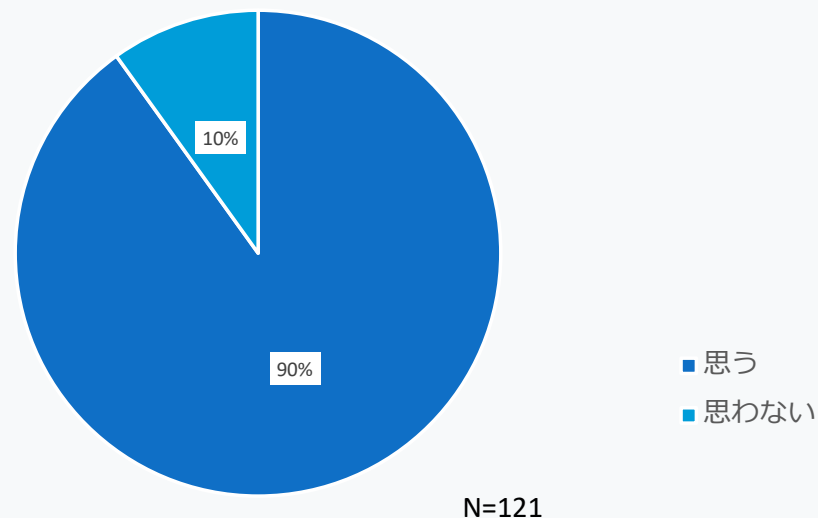
考察

- ・「面倒」「わずらわしい」「持ち運びが不便」といった回答が全世代で多い
- ・高校生において「見た目が気になる」との回答も目立って多い
- ・着用率を上げるには、ヘルメットの「使いやすさ」や「デザイン」の改善も必要と考えられる

Q11 まわりの友だちはヘルメットをかぶっていますか【小学生】

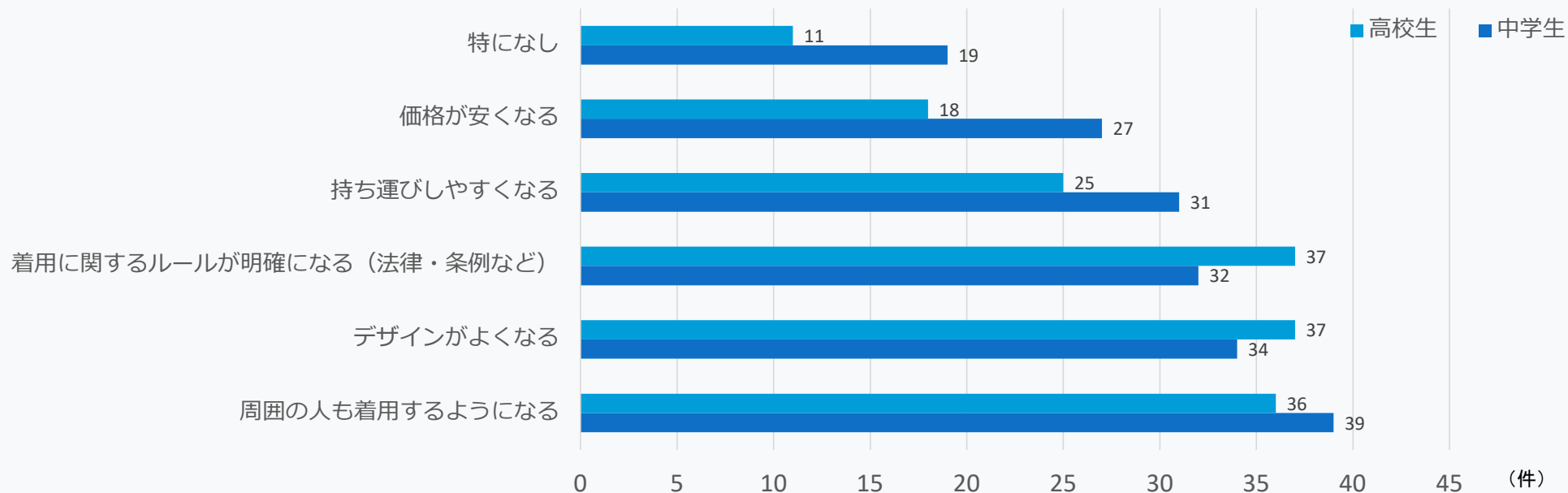


Q12 おうちの人に「ヘルメットをかぶりなさい」と言われたらかぶろうと思いますか【小学生】



- 考察
- ・「半分くらいかぶっている」「全員かぶっている」で過半数を占める
 - ・ **保護者からの助言**でヘルメットの着用率を上げる取組も有効

Q13 どのような条件があればヘルメットを着用したいと思いますか【中高生】

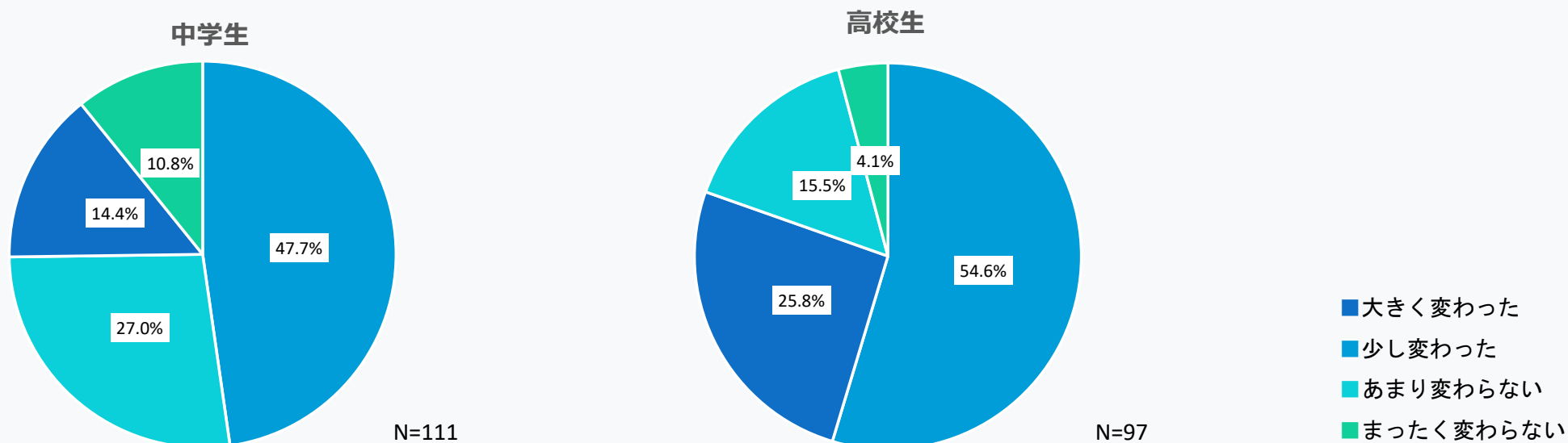


- 考察
- ・着用環境やデザインなど、見た目を重視する回答が多い
 - ・個人への呼びかけだけでなく、**周囲も着用する環境づくり**が必要

SECTION

青切符

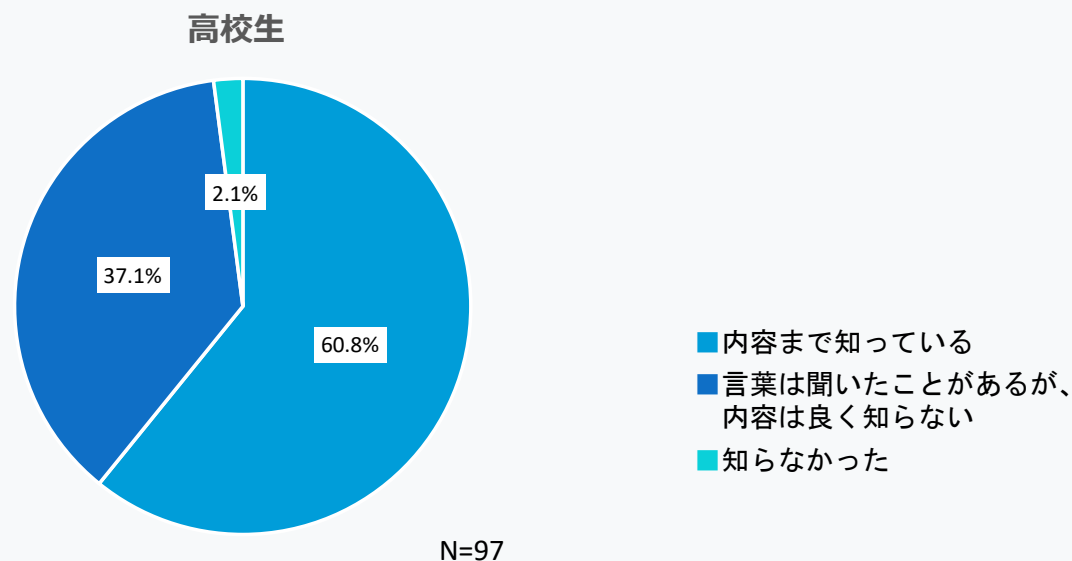
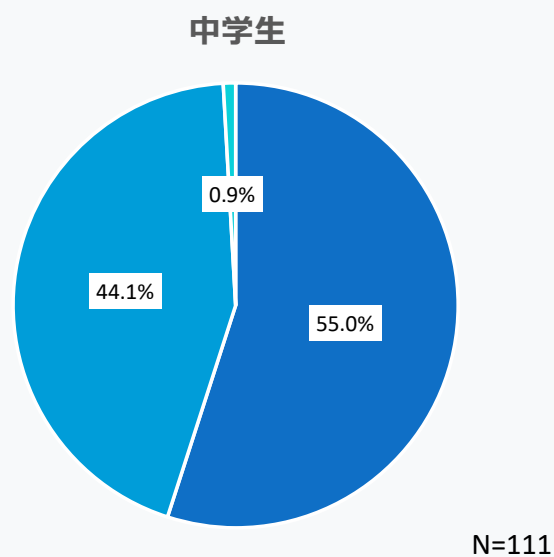
Q14 あなたは、近年の自転車の反則通告制度（青切符制度）やヘルメット着用の努力義務化などにより自転車の乗り方や意識に変化はありましたか【中高生】



考察

- ・ 中学生で62.1%、高校生で80.4%が「大きく変わった」「少し変わった」と回答
- ・ 制度変更によって自転車の乗り方や意識に変化はあったと考えられる

Q15 自転車の交通違反に対して、いわゆる「青切符」（交通反則通告制度）が適用されること があることを知っていましたか【中高生】



- 内容まで知っている
- 言葉は聞いたことがあるが、内容は良く知らない
- 知らなかった

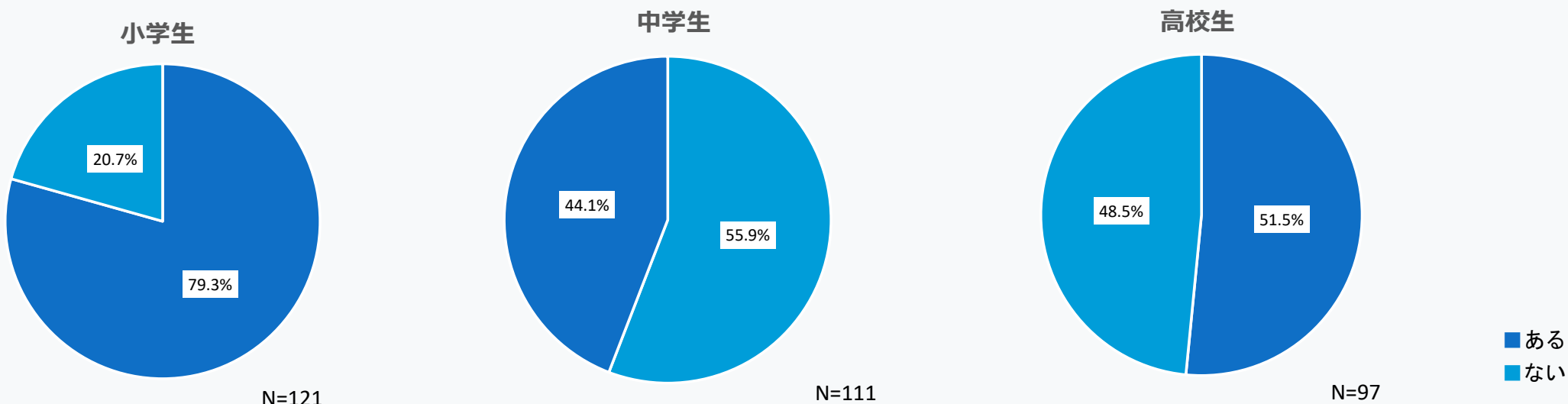
考察

- ・ 高校生では、60%以上が内容まで把握しており、わずかではあるが知らないという回答もあった
- ・ まだ**制度の内容を分かりやすく伝える必要がある**と言える

SECTION

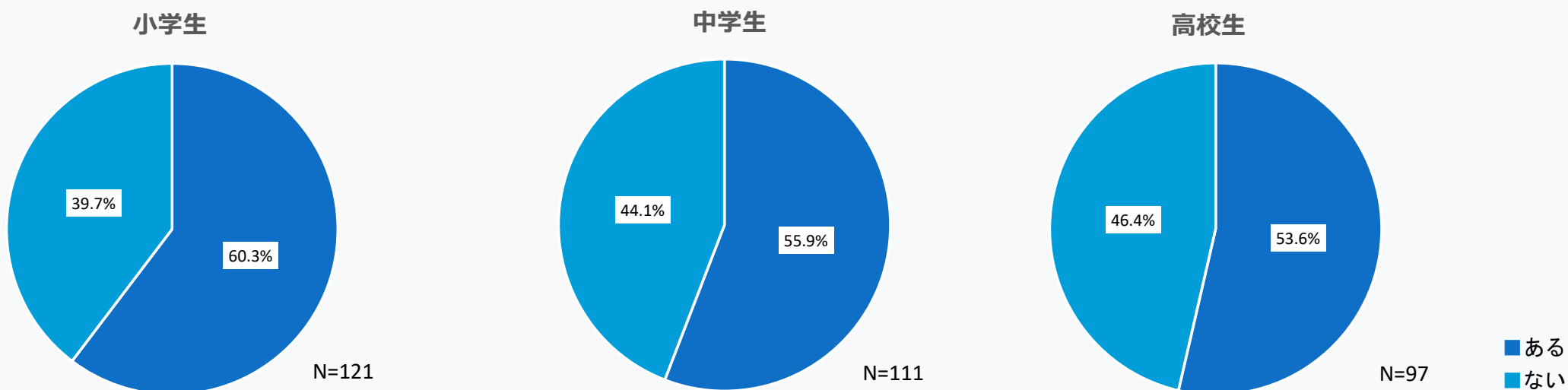
交通安全イベント

Q16 (小学生) 自転車の交通安全イベントを見たり聞いたりしたことがありますか
(中高生) 県や市町などが実施している自転車の交通安全に関する啓発やイベントを見聞きしたことがありますか



- 考察
- ・小学生では、「ある」との回答が80%近くある
 - ・中学生以上は、啓発イベントの認知が約半数ほどになり、普及啓発の機会が減っている可能性がある

Q17 これまでに、自転車の交通安全イベントに参加したことがありますか

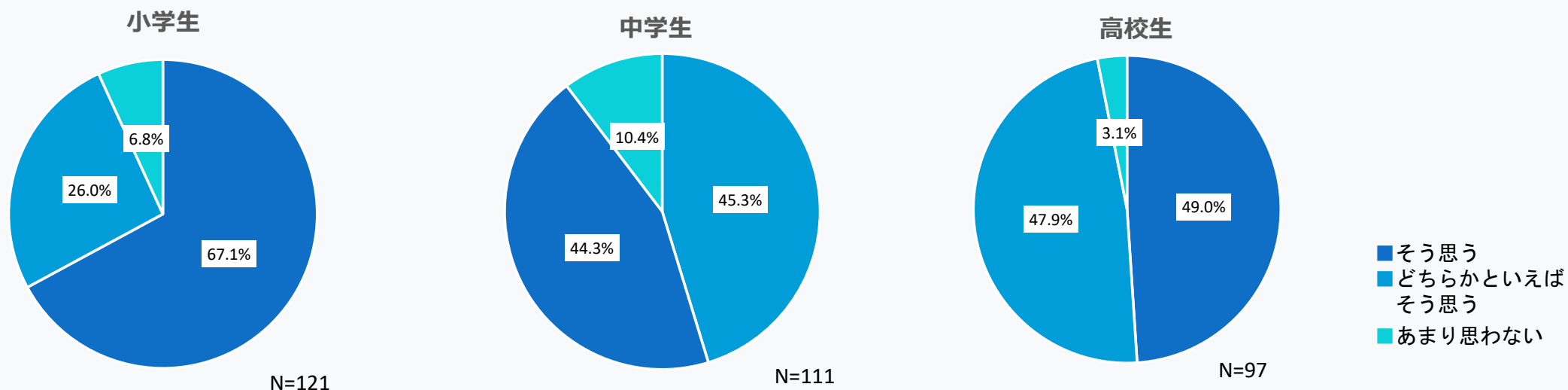


- 考察
- ・小学生では特に高いが、どの世代でも半数以上がイベントへの参加経験が「ある」
 - ・中高生が参加しやすいイベントづくりが必要

SECTION

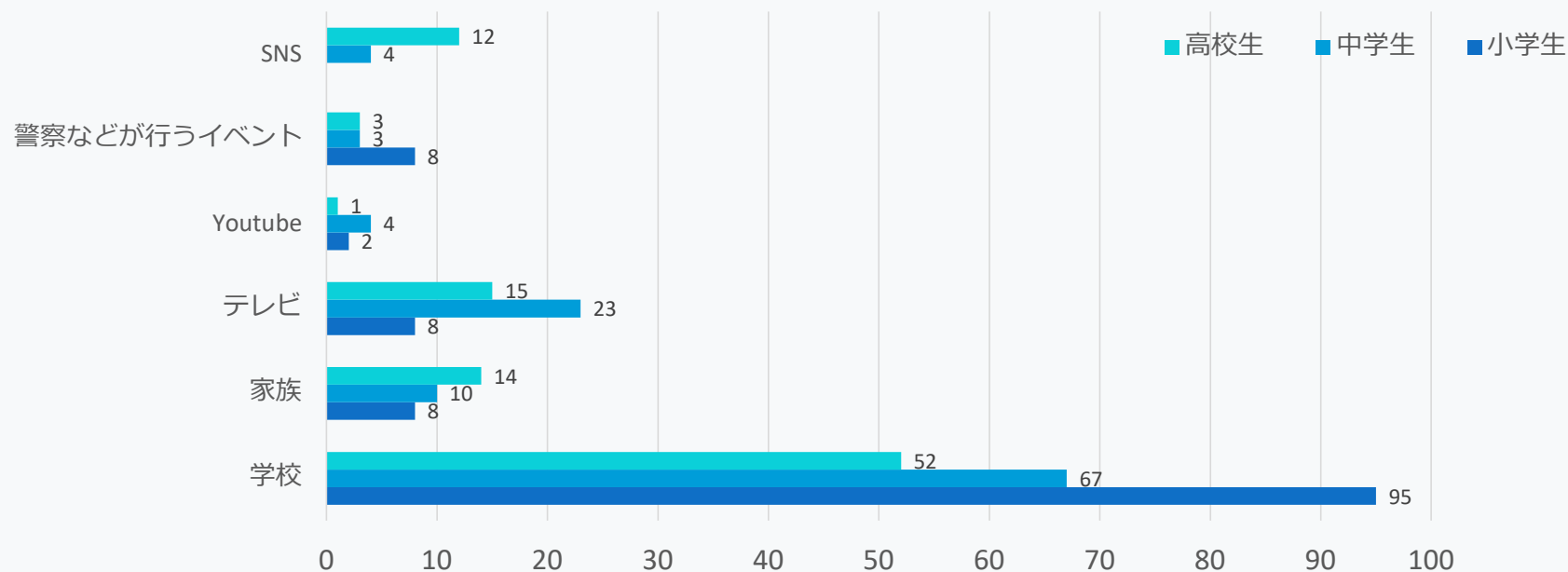
交通安全に関する情報

(Q17に付随) 交通安全についての情報を知ること、 自転車の運転に気を付けるようになったと思いますか



- 考察
- ・ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する割合がどの世代でも8割以上
 - ・ 交通安全情報は、自転車の安全利用意識を高める効果があると考えられる
 - ・ 交通安全情報の発信は一定の効果が見込まれるため、継続的な情報発信が重要

Q18 自転車の交通安全についての情報をどこで知りますか

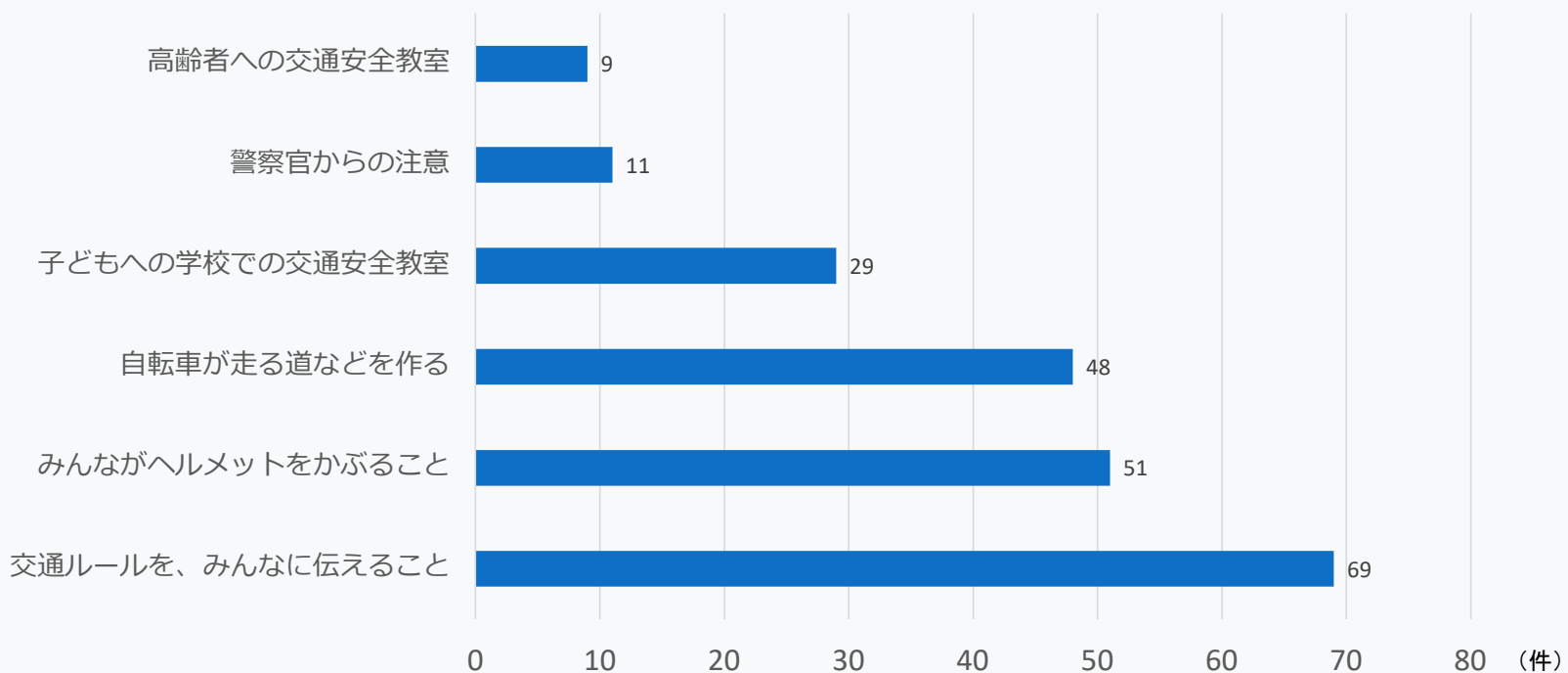


- 考察
- ・全世代において、「**学校**」との回答数が圧倒的に多い
 - ・「テレビ」や「SNS」についても、中高生になると一定の広報力はある
 - ・学校以外については、年齢に合わせて情報発信の媒体を変えることも有効

SECTION

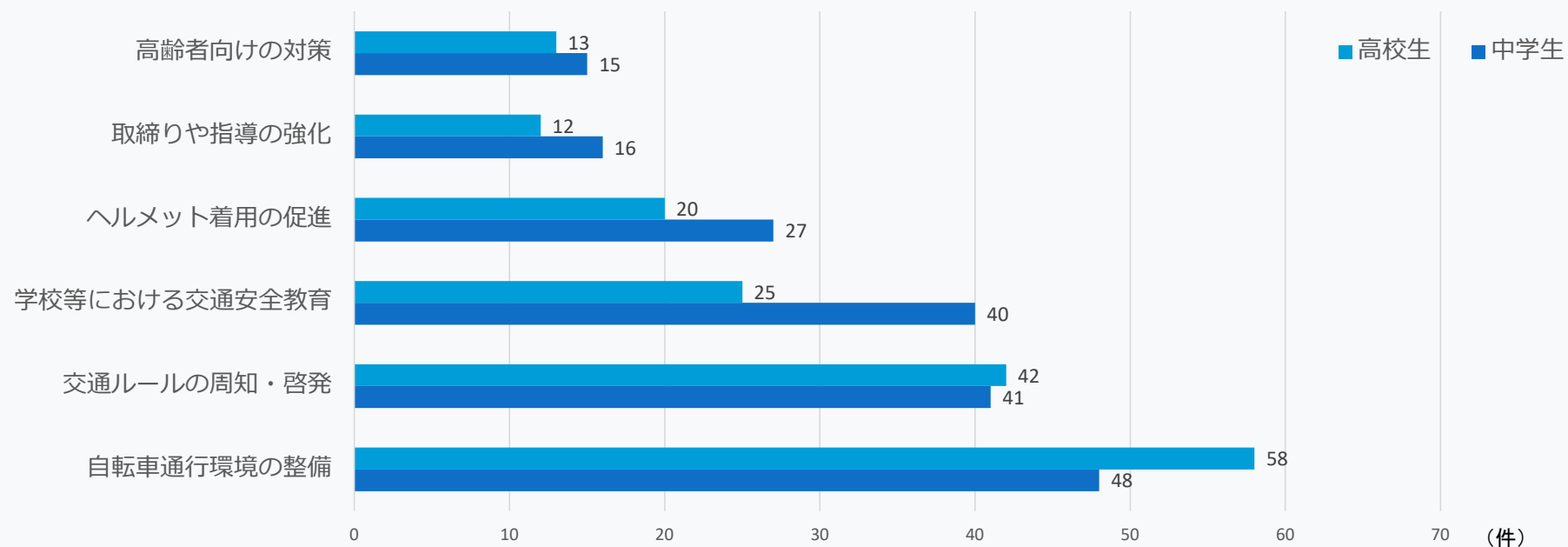
今後取り組むこと

Q19 自転車の交通安全について、特に大事なことはどれだと思いますか【小学生】



- 考察**
- ・ 交通ルールの理解促進、ヘルメットの着用についての周知が必要
 - ・ 自転車専用道路についても、一定求められている

Q20 今後、自転車の交通安全を高めるために、 県が特に力を入れるべき取組はどれだと思いますか【中高生】



考察 ・ヘルメットの着用や交通ルールの周知・啓発よりも「自転車通行環境の整備」上位となっているものの、交通ルール等についての周知等についても必要とされている

SECTION

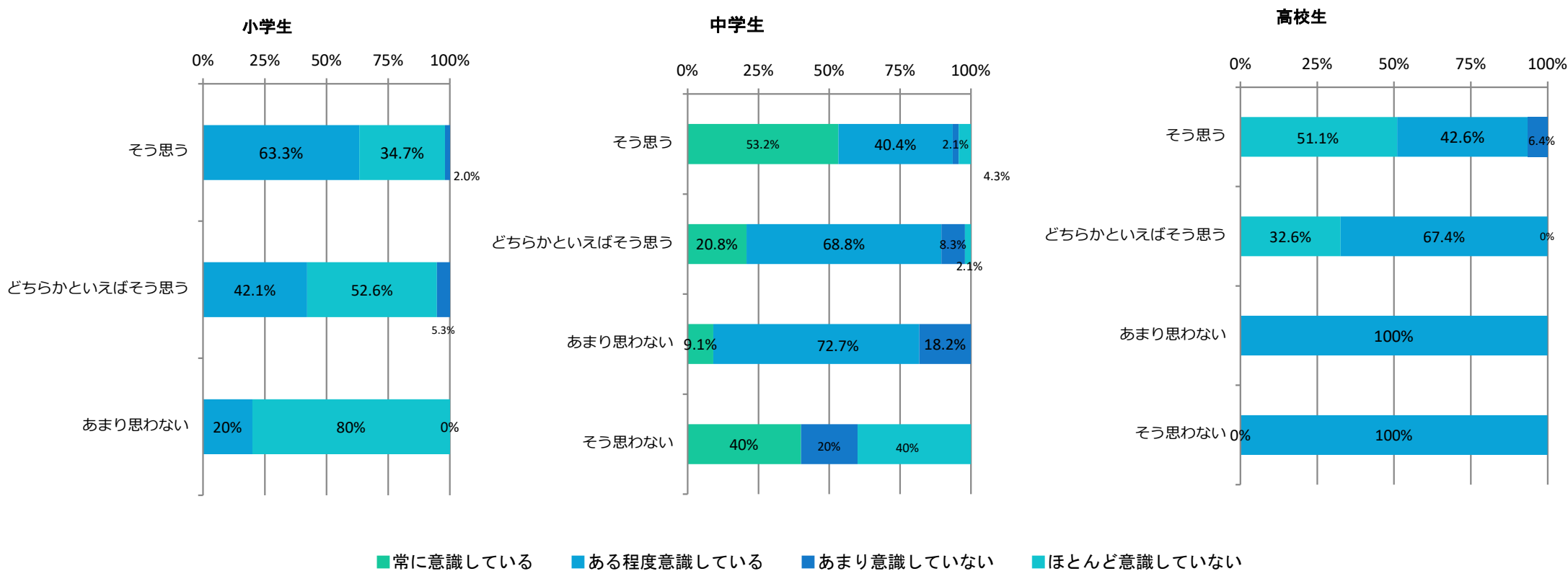
学年別比較・考察

各質問の違いを簡潔に整理

考察① 交通安全情報 × 交通ルール意識

仮説：交通安全情報に触れることで交通意識が向上するのではないか

縦軸：交通安全についての情報を知ることによって、自転車の運転に気を付けるようになったと思いますか
横軸：あなたは、自転車に乗る時、交通ルールをどれくらい守りますか



考察1 交通安全情報 × 交通ルール意識

交通安全情報に触れることと、交通ルール意識の関係を比較

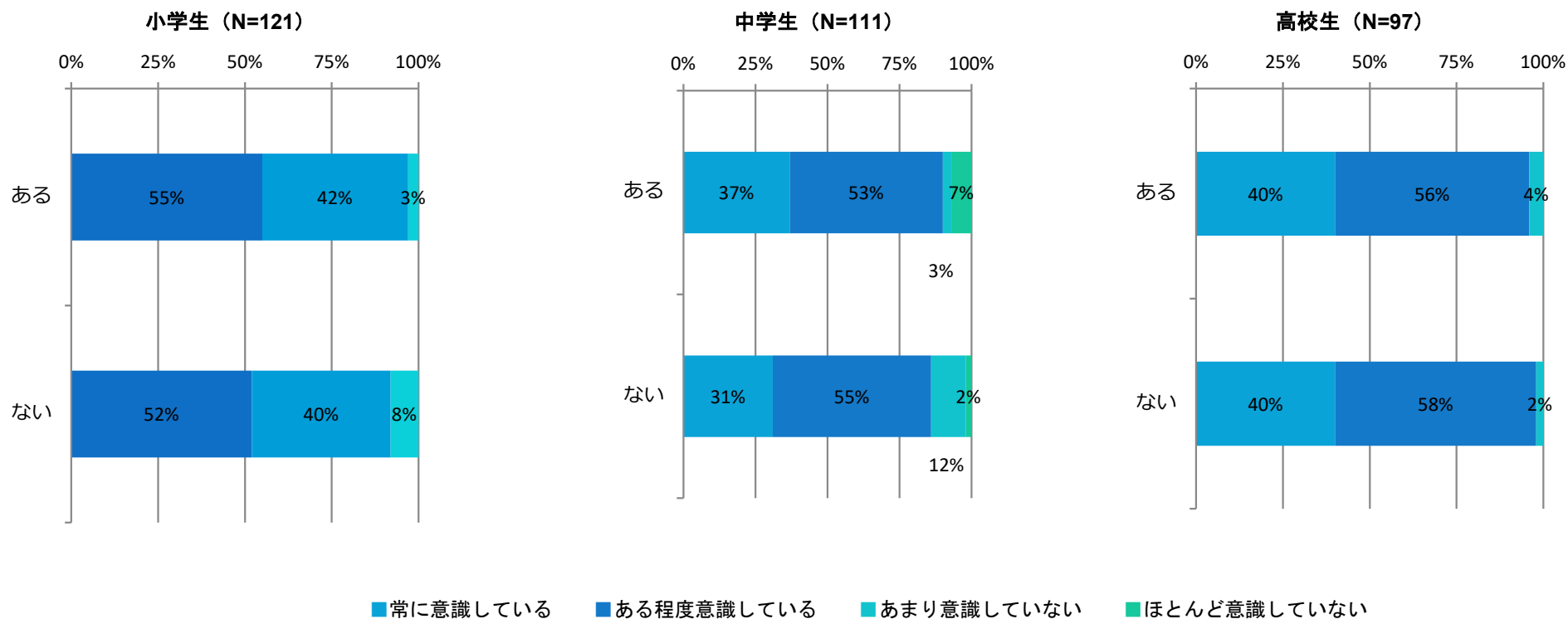
- 小学生において、「そう思う」と回答した人ほど、普段自転車を利用する際に交通ルールを「ある程度意識している」割合が高く、「あまり思わない」との回答になると割合が下がってしまう。
- 中学生では、交通安全の情報を知ることによって自分の運転に気を付けると考える人は、半数以上が交通ルール常に意識していると回答しているが、そうでない人も交通ルールを「常に意識している」割合が高いため、交通安全の情報を知ることによって、普段の交通ルールへの意識とは関連していない。
- 高校生においては、交通安全の情報を知ることによって自分の運転に気をつけるようになったと思わない人の方が、普段の交通ルールを「ある程度意識している」の割合が高く、交通安全の情報を知ることが自分の運転に気をつけるようになったと思う人に、「全く意識しない」人が一定数いる。

まとめ：交通安全情報と交通ルール意識には一定の関係はあるが、強い相関とは言いにくい。

考察② 交通ルールを守る意識×交通安全イベントへの参加経験

仮説：交通イベントに参加したことがある人は交通ルールを守る傾向が強いのではないか

縦軸：これまでに、自転車の交通安全イベントに参加したことがありますか
横軸：あなたは、自転車に乗る時、交通ルールをどれくらい守りますか



考察2 交通ルールを守る意識 × 交通安全イベントへの参加経験

イベント参加経験が交通ルールを守る意識に与える傾向を比較

- ・小中学生ではイベント参加経験が「ある」と答えた人は「ない」と答えた人より交通ルールを守ることを「あまり意識していない」「ほとんど意識していない」と答えた割合が数%だけ低い。
- ・高校生ではイベント参加の有無によって、交通ルールを守る意識について大きな違いは見られない。

まとめ：イベント参加経験と交通ルール意識には、あまり相関がないといえる